

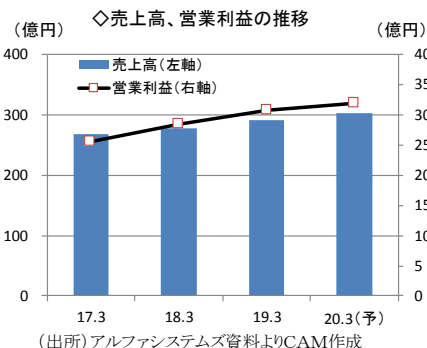
企業ニュース アルファシステムズ

(東証1部：4719) <https://www.alpha.co.jp/>

作成者：奥村義弘

独立系ソフトウェア開発会社

1972年、主に通信ソフトウェアの開発を目的として設立。現在、通信システム分野では、クラウドサービス市場の拡大に伴うネットワーク設備の増強投資、運用・保守効率化のためのシステム投資が継続している。今後は革新的なサービスを提供する通信インフラとして第5世代移動通信システム（5G）の整備と活用に向けた取り組みが、様々な領域に広がりつつある。流通、サービス、官公庁、金融、教育等、様々な業種でのオープンシステムでのICT活用が進められている。当社の19.3期のセグメント別売上高は、通信システム36%、オープンシステム55%、組み込みシステム5%、その他4%。主要顧客の売上高構成比はNTTデータ27%、富士通13%、ヤフー13%。



Eコマース向けなどオープンシステム分野が好調

19.3期の業績は受注高が296億円、前期比3%増、売上高が291億円、同5%増、営業利益が31億円、同8%増。通信システムは同1%減収。携帯端末関連や無線基地局がほぼ想定通りの減少、その中で次世代ネットワーク関連などノード（接続部）システムが増加した。オープンシステムは同9%増収。金融関連が減少したが、Eコマース関連が好調、官公庁向けなども堅調に推移した。損益面では採用コストや人件費増などがあったが、好調な稼働率で吸収した。

20.3期の通期会社計画は、売上高が303億円、前期比4%増、営業利益が32億円、同4%増。8期連続の増収で過去最高の売上高更新を見込む。営業利益率は3年連続の10%台維持を予想する。通信システムは同8%減収。オープンシステムは同10%増収。国内IT市場ではデジタル技術活用による業務革新の加速が予想される。高水準な公共投資が継続しており、公共（官公庁、エネルギー関連）が堅調に推移しよう。流通・サービスも引き続きEコマース関連の増加が見込まれる。通信システムは通信事業者の設備投資の抑制が続いており、需要減が見込まれている。ただ2021年以降は4G非依存の5Gサービスも立ち上がるものとみられ、需要は回復しよう。組み込みシステムでは自動車関連の増加が見込まれる。

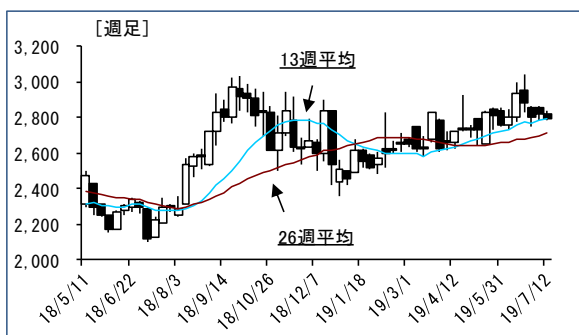
【株価動向・投資判断】

堅調な需要と安定した収益性を評価したい。通信系にも強く中長期でも注目できよう。

<4719 アルファ 業績：非連結>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
18.3	27,754 (4)	2,837 (11)	2,903 (10)	1,992 (15)	134.3	50.00
19.3	29,100 (5)	3,075 (8)	3,140 (8)	2,089 (5)	145.1	50.00
20.3 予	30,300 (4)	3,200 (4)	3,270 (4)	2,200 (5)	156.7	50.00



[主要株価指標] (売買単位：100株)	
株価 (2019/7/12)	2,793 円
年初来高値 (高値日)	3,045 円 (19/6/19)
同 安値 (安値日)	2,416 円 (19/1/4)
予想 P E R (20.3 予)	17.8 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	2,370.0 円
P B R	1.18 倍
予想配当利回り	1.79 %
(1株当たり配当金50.00円)	
R O E (19.3)	6.2 %
発行済み株式数	1,405 万株